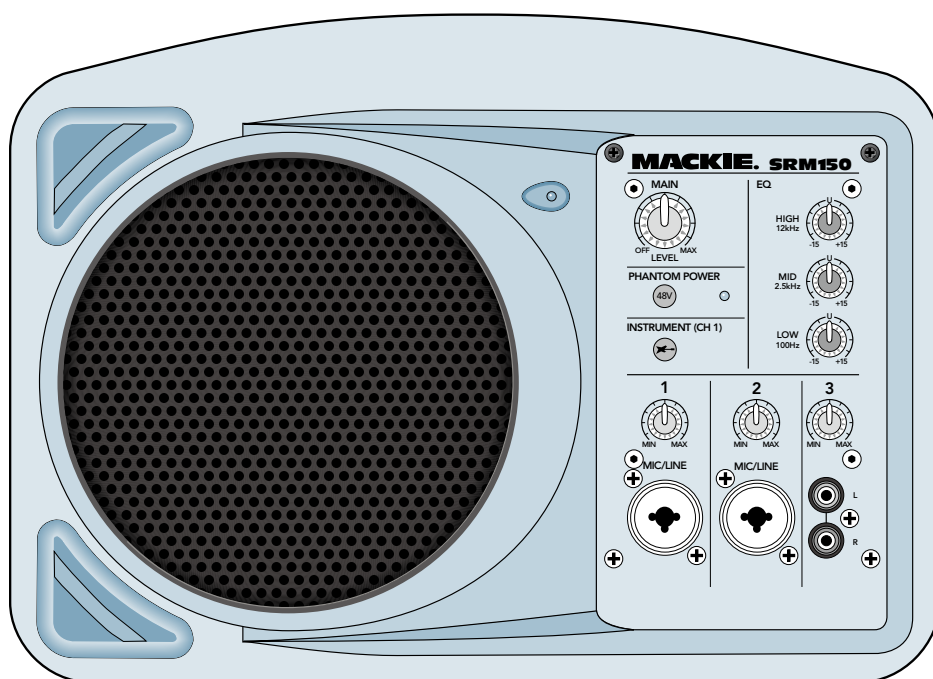


MACKIE®

SRM150

Compact Active PA System

日本語
オーナーズマニュアル



安全のために

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

 	「必ず守ってください」という強制を表しています。	 	「絶対にしないでください」という禁止を表しています。
---	--------------------------	---	----------------------------

 **警告** この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本書をすべて読むこと

この製品を設置、使用する前に必ず本書をすべてよく読み、本書の内容にしたがってください。



必ず実行

電源コードは仕様に適合した電源に接続すること

適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。



必ず実行

確実に接地すること（アース）

感電を防止するため、確実にアースに接続してください。



禁止

水分をかけたり湿気にさらさないこと

この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。この製品を直接水がかかる場所、または湿度の高い場所に置かないでください。感電や火災、故障の原因になります。



禁止

電源コードを濡れた手でさわらないこと

感電の原因になります。



禁止

大音量で使用しないこと

この製品をアンプやスピーカーなど他の機器と組み合わせて、大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど接続している機器が故障する原因になる場合があります。



必ず実行

異臭や異常を感じたらただちに電源コードを抜き、修理を依頼すること

正常に機能しない、異臭や異音がするなどの場合は、修理をご依頼ください。



必ず実行

移動するときはケーブルをすべて抜くこと

電源コードや接続ケーブルを接続したまま本体を移動しないでください。ケーブルを傷めたり、周囲の方が転倒する原因になります。



必ず実行

電源コードや接続ケーブルは安全に配置すること

ケーブルをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないでください。また踏んだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、ケーブルが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っかけるような場所に配置しないでください。負傷の原因になる場合があります。



必ず実行

電源コードや電源プラグに異常がある場合は使用を中止し、修理を依頼すること

電源コードやプラグの摩耗、接触不良等の場合は本体を使用せず、修理をご依頼ください。



必ず実行

長時間使用しないときや落雷の危険があるときは電源コードを抜くこと

火災や感電、故障の原因になる場合があります。



禁止

本体を落下しないこと

本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。



禁止

本体内部に液体や物を入れないこと

火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。



警告

この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



禁止

製品を分解したり改造しないこと

火災や感電、けが、故障の原因になります。本体の内部にはお客様が操作する部分はありません。



禁止

本体の換気用開口部をふさがないこと

本体内部の温度上昇を防ぐため、この製品の表面には換気用開口部があります。この開口部をふさぐと適切に換気ができず、内部の温度が上昇して故障や火災、誤作動の原因になる場合があります。



必ず実行

スタンドは安全な場所で、規格に適合するものを使用すること

この製品をスタンドに取り付けて使用する場合は、安定した場所に設置してください。使用するスタンドの耐荷重、取付方法などの仕様を守ってお使いください。使用法を誤るとスピーカーが転倒し、近くにいる方が死亡または負傷する原因になる場合があります。



禁止

スピーカーを吊り下げるときにハンドルを利用しないこと

製品が落下して、近くにいる方が死亡または負傷する原因になる場合があります。



必ず実行

本体を高い場所や頭上に設置する場合は専門の技術者に工事を依頼すること

足場が不安定な高所作業、人の頭上への設置は、死亡や負傷、製品の損傷などの危険が伴います。専門の設備工事業者にご依頼ください。



必ず実行

他の機器と接続するときはあらかじめこの製品の電源を切っておくこと

接続時に大音量のノイズを発生し、聴覚異常やスピーカー破損の原因になる場合があります。



禁止

本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないこと

ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。



必ず実行

電源コードは必ずこの製品に付属のものを使うこと

適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。



必ず実行

電源プラグに手が届くよう設置すること

この製品の背面には電源を遮断する電源プラグが付いています。この電源プラグに簡単に手が届くよう設置してください。



注意

この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本体は安定した場所に設置すること

本体を不安定な場所に設置すると、落下などによる故障の原因になります。



禁止

高温になる場所に設置しないこと

直射日光が当たる場所、熱を発するものの近くに置かないでください。製品の上にもうすぐなど裸火を置かないでください。



禁止

ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないこと

本体の故障やお使いになる方がけがをする原因になる場合があります。



必ず実行

スピーカーは定格範囲内で使用すること

定格範囲を超えるレベルや周波数を入力すると、スピーカーが故障する原因になります。特に歪みにはご注意ください。

修理

日本仕様の Mackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。

1. 本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容をチェックして下さい。
2. テクニカルサポートに電話でまたは、support_mackie@otk.co.jp にメールで「メンテナンス申込書」を請求してください。「メンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、04-2944-3812 へ FAX してください。折り返し RA 番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付票を FAX で返送いたします。RA 番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。
3. オーナーズマニュアルと電源コードは同梱しないでください。修理には必要がありません。
4. 本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
5. 必ず、RA 番号が記載された修理受付票のコピーを同梱してください。また送り状の通信欄にも、RA 番号と商品名、製造番号を記載してください。RA 番号のない修理品は受付することができません。
6. 保証内修理を行う場合には、販売店印とご購入日が明記された保証書が必要です。くわしくは、次項の保証規定をご参照ください。

保証

本機の保証はご購入後 1 年間となっております。

正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、あらかじめご了承ください。

- お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
- お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
- 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
- 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
- 正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
- 日本国外でのご使用中の故障、損傷

技術的なご質問・修理窓口

サポートセンター

〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢 2-37-1

(株)サヤマトラフィック 敷地内

☎ 04-2944-3811

FAX 04-2944-3812

✉ support_mackie@otk.co.jp

営業時間

月曜日～金曜日 9:00 ～ 17:30

休業日

土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

営業窓口

東京 東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1

☎ 03-3639-7800 (代表)

FAX 03-3639-7801

大阪 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4

☎ 06-6152-7751

FAX 06-6152-7752

名古屋 名古屋市東区泉 1-23-30

☎ 052-950-3324

FAX 052-950-3325

福岡 福岡市南区大橋 4-16-18-201

☎ 092-554-6066

FAX 092-554-6064

営業時間

月曜日～金曜日 9:00 ～ 17:30

休業日

土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

ご質問は電子メールでも承ります。

✉ sales_mackie@otk.co.jp

はじめに

このたびは SR アプリケーションのために MACKIE コンパクトアクティブ PA システムをご購入いただき、ありがとうございます。

SRM150 はミキサーを内蔵し高い音圧レベルを提供するアクティブ PA システムで、このクラスと価格帯のコンパクト PA システムでは最高のパフォーマンスを提供します。

MACKIE はコンパクト PA システムを設計するとき、以下の目標を掲げていました。

1. 高精度で高出力、そして正確な再生
2. 制御されスムーズな中域と高域の放射
3. きわめてクリーンでヘッドルームの高いマイクプリアンプ
4. 高出力の D 級増幅
5. 3 バンド EQ 付き MACKIE ミキサー内蔵

MACKIE が誇る最高のメカニカルエンジニアとアナログエンジニアが集結し、あらゆる角度でこの目標を達成することができました。その結果、自宅でのコンサートセッティング、スタジオユース、そしてスタジオの屋上での即興コンサートでも同じように SR でできる PA システムになったのです。

トランスデューサー

SRM150 アクティブスピーカーには、5.25 インチのフルレンジ・ネオジウム・ドライバーが付いています。

パワーアンプ

SRM150 は、クリップすることなく 150W を出力可能な D 級アンプを内蔵しています。

このアンプには下記の特徴があります。

- 100Wrms 連続 (ピークで 150W) をクリップすることなく出力
- 入力信号がクリップ、歪み、極端なボイスコイルの過熱の原因になるほど大きいとき、内蔵リミッターが動作します。アンプに入る信号が安全なレベルになると、このリミッターは自動的に動作をゆるやかにします。



警告！ アンプにはリミッター保護回路が入っていますが、それでもアンプを過負荷にしないよう十分ご注意ください。サウンドが歪んだときは入力 (マイク/ライン) のゲインを下げるか、MAIN LEVE ノブを下げてください。

キャビネット

SRM150 のキャビネットは SRM350v2 や SRM450v2 と同じ、この星で最も丈夫な射出成形複合材料を使った設計です。底部には (SRM150 に同梱のマイクスタンドアダプターを使って) マイクスタンドに取り付けるためのマウントポイント、天面には (付属のブームエクステンダーを使って) マイクスタンドのブームを取り付けるための雌ねじがあります。

軽量で頑丈な仕上げによって、移動用サウンドシステムとして理想的です。さらにキャビネットのユニークな設計によって、ステージモニターとして簡単にフロアエッジにすることができます。

アクティブの利点

アクティブスピーカーには、パッシブスピーカーに比べて利点が数多くあります。

- アンプはスピーカーの負荷インピーダンスを特定して設計されています。アンプが駆動する負荷が明確なので、スピーカーから最大の音響出力を引き出しながら、アンプのパワー不足による過負荷でスピーカー損傷の危険を最小限にします。
- アンプ出力とドライバーの接続ケーブルを最短にとどめておけるので、長いスピーカーケーブルの抵抗でアンプのダンピングファクターが低下することはありません。さらにスピーカーケーブルで損失することなくアンプからの全パワーがドライバーに直接送り込まれます。
- スピーカーキャビネット内部にアクティブ回路があるため、高品質マイク/ライン入力部などディテールを追加することができます。

手短かに言えば、システム内部で複雑に相互接続されたコンポーネントが調和して動作し、可能な限りすばらしいサウンドを再生するよう設計されているのです。

クイックスタート

1. 最初に SRM150 のフロントパネルを下記の通りに設定してください。

- MAIN レベルノブ [6] を完全に下げます。
- (コンデンサーマイクを接続しないかぎり) PHANTOM POWER 48V スイッチ [5] を突き出した状態にします。
- (チャンネル 1 にエレクトリックギターを接続しないかぎり) INSTRUMENT スイッチ [4] を突き出した状態にします。
- チャンネル 1 から 3 のゲインノブ [3] を完全に下げます。
- EQ ノブ [7] をすべてセンターにします。

リアパネルは

- • POWER スイッチ [8] を OFF にします。
- • MIC/LINE スイッチ [12] を突き出した状態にします。



警告! 使用する前は必ず、MAIN レベルノブ [6] を下げ (反時計回りに回し) 切ってください。このノブが上がっていると、特に前回マイクを使った状態でラインソースを接続したとき、びっくりさせられるかもしれません。

2. シグナルソース (ミキシングコンソール、マイク、プリアンプなどマイクまたはラインレベルのソース) の出力を直接、フロントパネルの MIC/LINE コネクター [1] に接続します。このコネクターにはミキサー、プリアンプ、CD プレイヤー、テープデッキなどバランスのラインレベルソースと、マイクを直接接続する

ことができます。チャンネル 3 には特にテーブデッキや CD プレイヤーなどからのステレオ入力用にステレオ RCA ジャック [2] があります。

3. リアパネルの電源インレット [10] に、付属の AC 電源コードを接続してください。電源コードのもう一方の端は、製品に適合する電源コンセントに接続してください (SRM150 はユニバーサル電源部を採用しているので、100V から 240V の電源に対応します)。

4. シグナルソースの電源を入れてください。このとき (付いている場合は) マスター・ボリューム・コントロールを必ず下げてください。

5. SRM150 の POWER スイッチ [8] を ON にします。

6. マイクに向かってしゃべる、ギターを演奏する、CD プレイヤーを再生するなど、シグナルソースをスタートします。シグナルソースは通常動作の音量に調整してください。

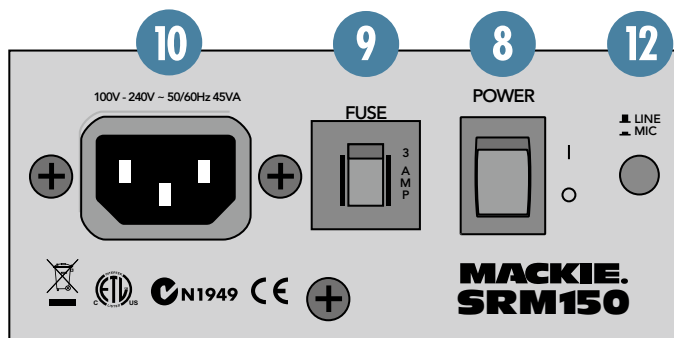
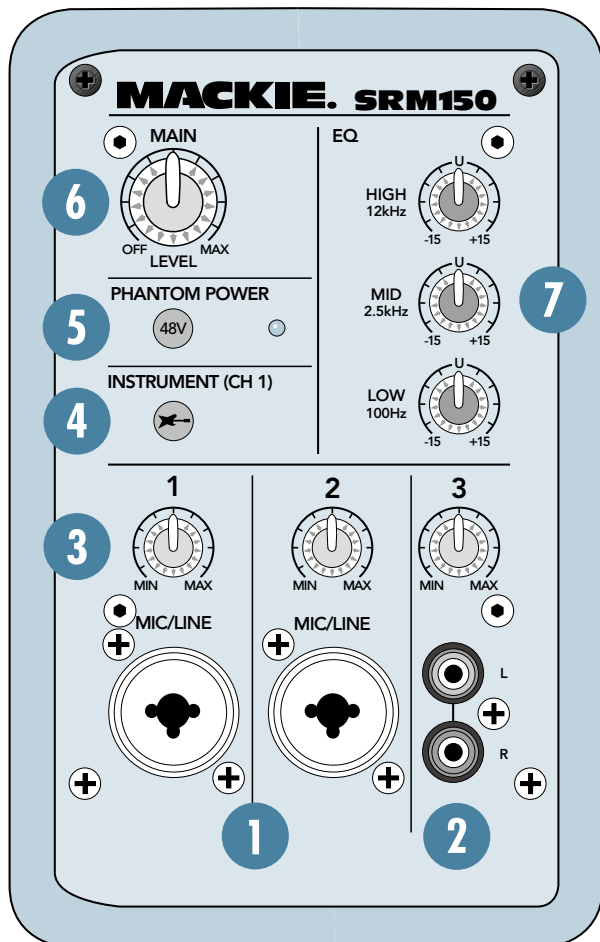
7. MAIN レベルノブ [6] を中央付近 (12 時方向) まで上げてください。

8. シグナルソースを接続した入力チャンネルのゲインノブ [3] をゆっくり、望ましい音量になるまで上げてください。

9. 音量が高すぎるときは MAIN レベルノブ (あるいは入力ソースにボリュームコントロールがある場合はそちら) を下げてください。

音量が低すぎるときは MAIN レベルノブ (あるいは入力ソースにボリュームコントロールがある場合はそちら) を上げてください。

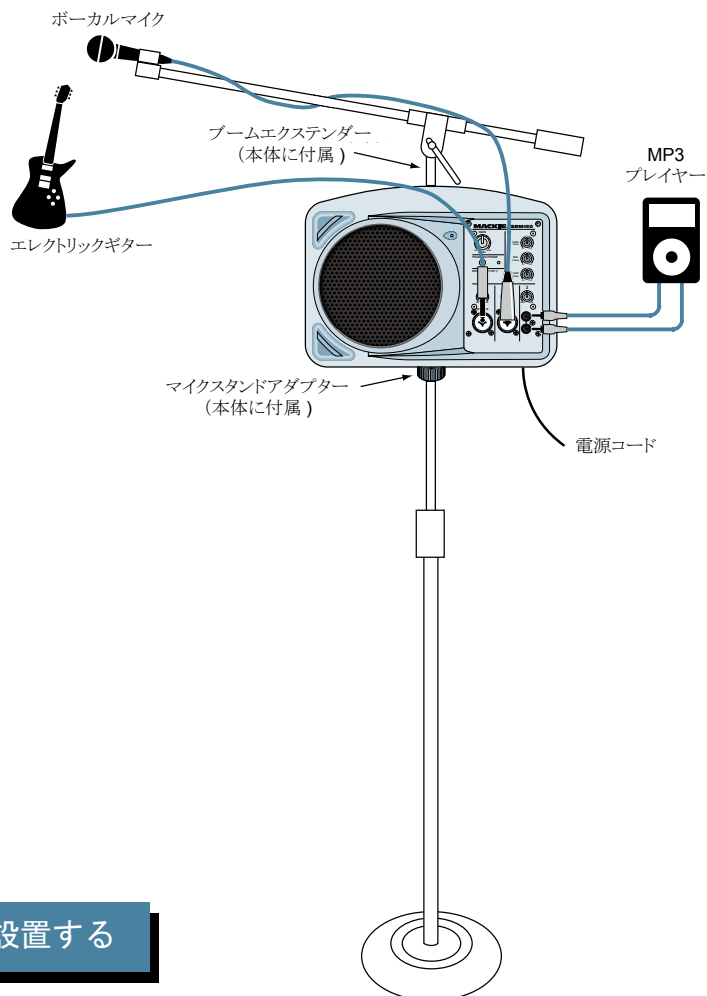
10. 音が出ないときは、調べる前に SRM150 の MAIN レベルノブを下げてください。ミキサーやプリアンプがミュートされている、MIC/LINE スイッチが押されていない、などの原因が考えられます。



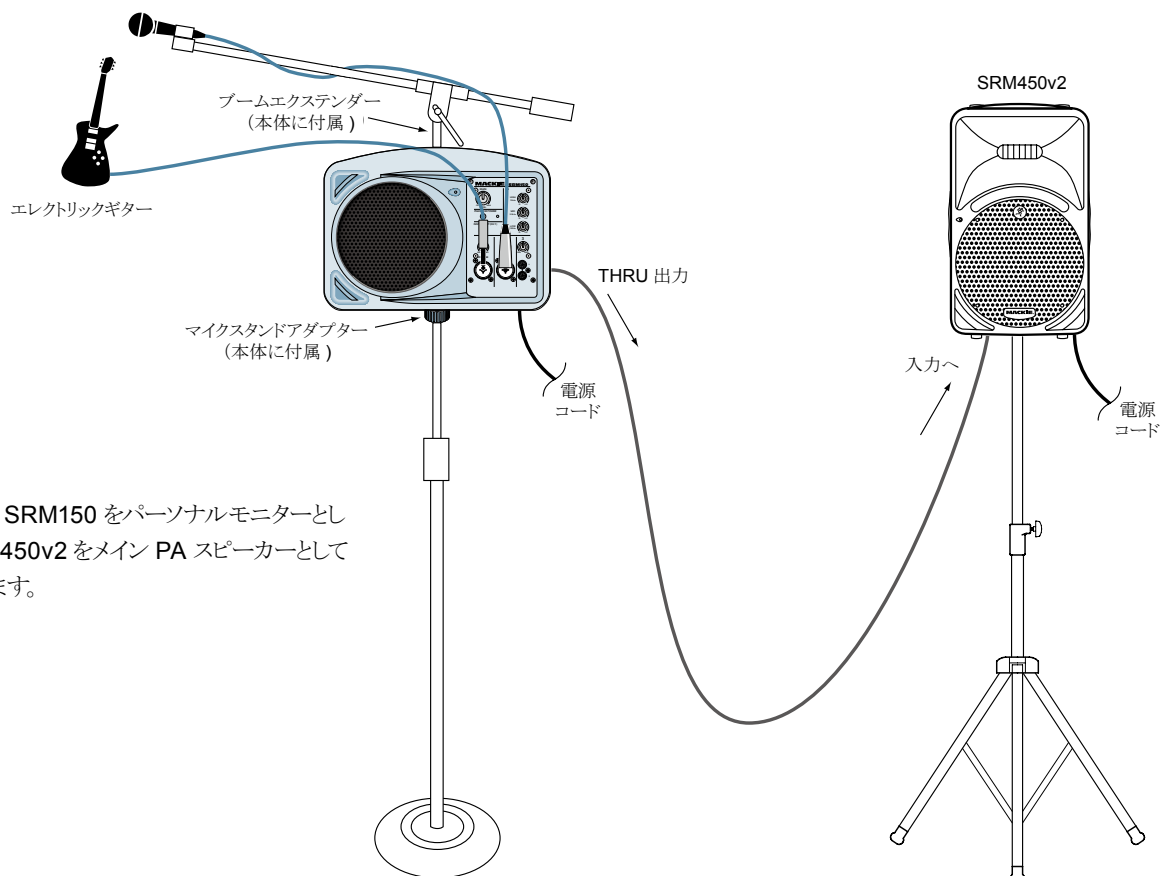
接続図

この図は SRM150 をパーソナルモニターに使う方法を示しています。付属のマイクスタンドアダプターで SRM150 をマイクスタンドに取り付けます。(これも同梱の) ブームエクステンダーを SRM150 の天面に付けられ、マイクブームをマウントすることができます。

SRM150 (のチャンネル 1 と 2) にマイクと楽器、チャンネル 3 に MP3 などの再生機器を、それぞれ接続してください。

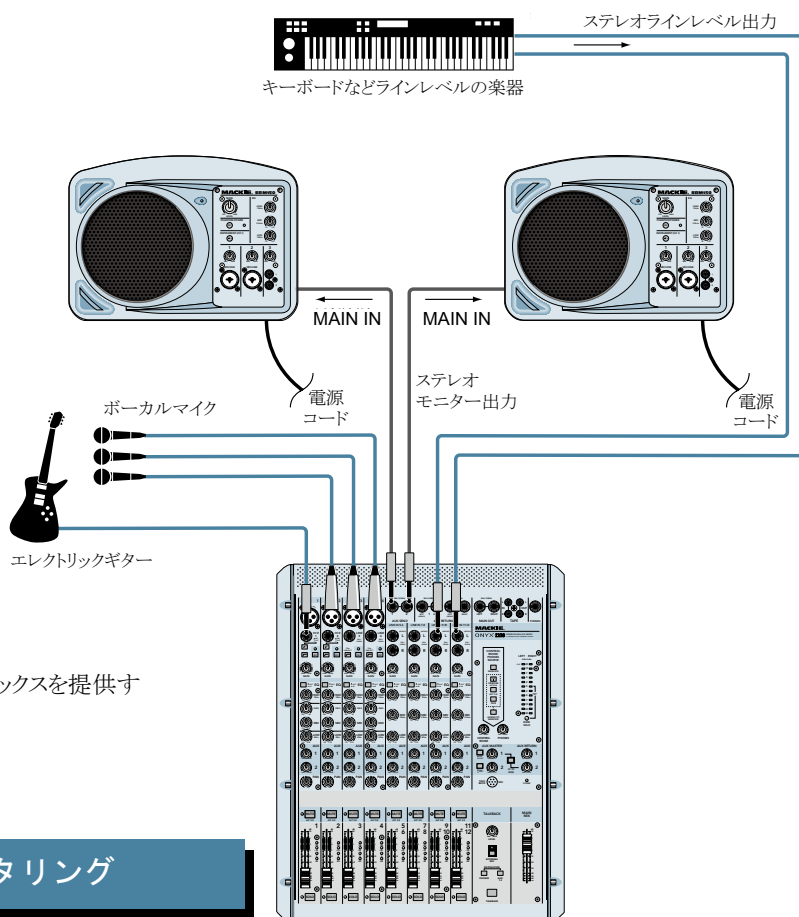


SRM150: マイクスタンドやブームに設置する

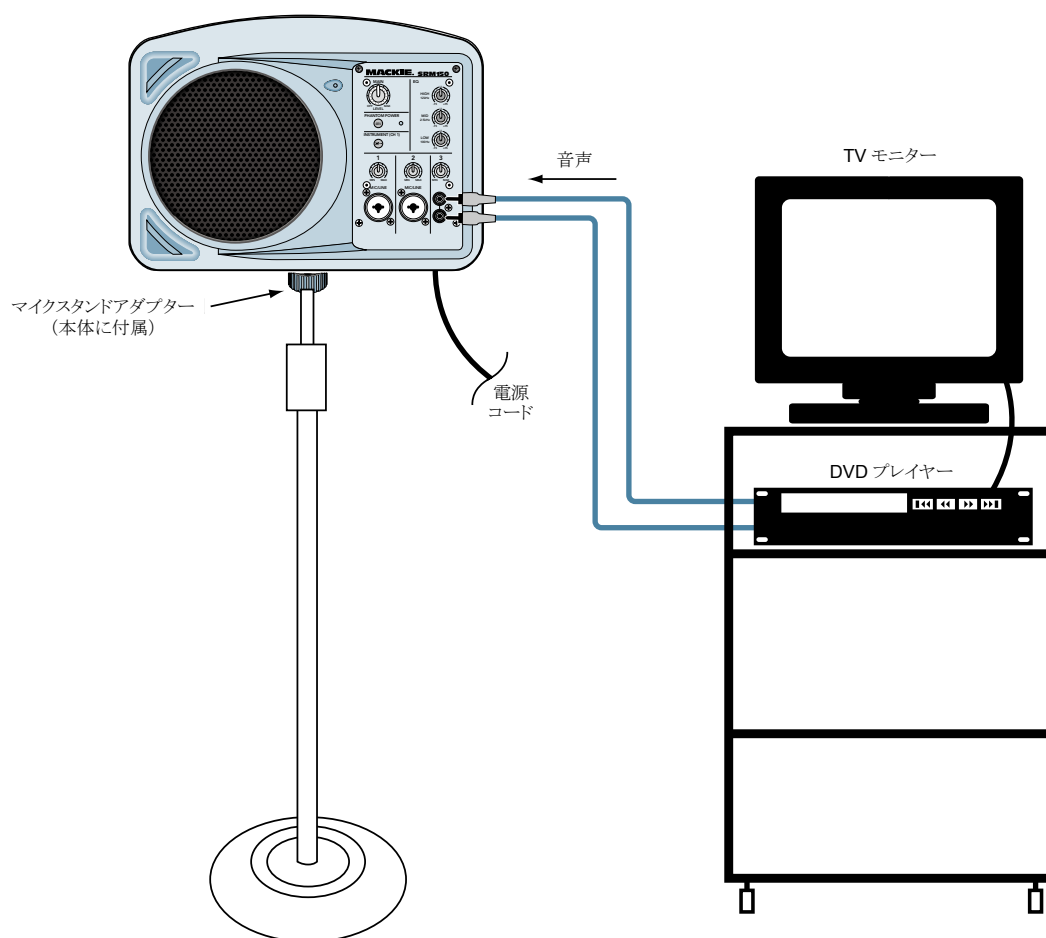


ここでは SRM150 をパーソナルモニターとして、SRM450v2 をメイン PA スピーカーとして使っています。

SRM150: SRM450v2 を併用した小さなクラブ



SRM150: ステレオモニタリング



SRM150: A/Vカート

フロントパネルについて

SRM150 の接続とコントロールはほとんど、手が届きやすいようフロントパネルにあります。

1 MIC/LINE コネクター

チャンネル 1 と 2 は、XLR でバランスのマイク入力、1/4 インチ TRS または TS でバランスまたはアンバランスのラインレベル入力の、どれでも受けられる **combo** コネクターです。

XLR 入力の配線は下記の通りです。

- 1 番ピン = シールドまたはグラウンド
- 2 番ピン = 陽極 (+ またはホット)
- 3 番ピン = 陰極 (- またはコールド)

1/4 インチ入力は下記の通り配線されていて、バランスとアンバランスどちらの入力でも受けることができます。

- スリーブ = シールドまたはグラウンド
- チップ = 陽極 (+ またはホット)
- リング = 陰極 (- またはコールド)

2. ステレオ RCA ジャック

チャンネル 3 には一対の RCA コネクターがあり、CD プレイヤーや MP3 プレイヤーなどのデバイスからステレオ・ライン・レベル入力を受けることができます。

3. ゲインノブ

チャンネルごとに信号レベルを調整するために使います。

SRM150 には Mackie の世界的に有名な低ノイズのマイク・プリアンプ・テクノロジーを採用しているので、入力にはラインレベルとマイクレベルのどちらも接続することができ、このノブでレベルを正しく調整することができます。

4 ページのクイックスタートにしたがってゲインノブを設定してください。たいていの場合は 12 時方向になるでしょう。特に高いラインレベルの信号を SRM150 に接続する場合は、このノブを 9 時方向まで下げる必要があるかもしれません。低いラインレベルまたはマイクレベルの信号を接続する場合は、3 時方向まで上げる必要があるかもしれません。

4. INSTRUMENT スイッチ (チャンネル 1)

このボタンを押すと、チャンネル 1 の 1/4 インチライン入力が楽器入力に変わります。このスイッチが突き出した状態のとき、1/4 インチ入力はローインピーダンスのソースから標準のラインレベル信号を受けます。このスイッチを押し込んだ状態にすると、通常は DI ボックスを経由して接続するエレクトリックピックアップ付きの楽器から、ハイインピーダンス信号を受けます。



一般的なラインレベル入力に直接ギターを接続すると、特に高域でゲインが損失してどんよりしたサウンドになります。通常はギターと、ミキサーやプリアンプの入力との間にダイレクトボックスを入れ、ギターのインピーダンスをハイからローに変換します。チャンネル 1 の楽器入力ではダイレクトボックスは不要です。まるでダイレクトボックスを内蔵しているかのようなものです。

しかしながら ... この楽器入力はアンバランスなので、楽器と SRM150 の間を (6m 以上もの) 長いケーブルで接続するときは、ケーブルがノイズを拾わないようバランス出力付きのダイレクトボックスを使うのが最善策です。

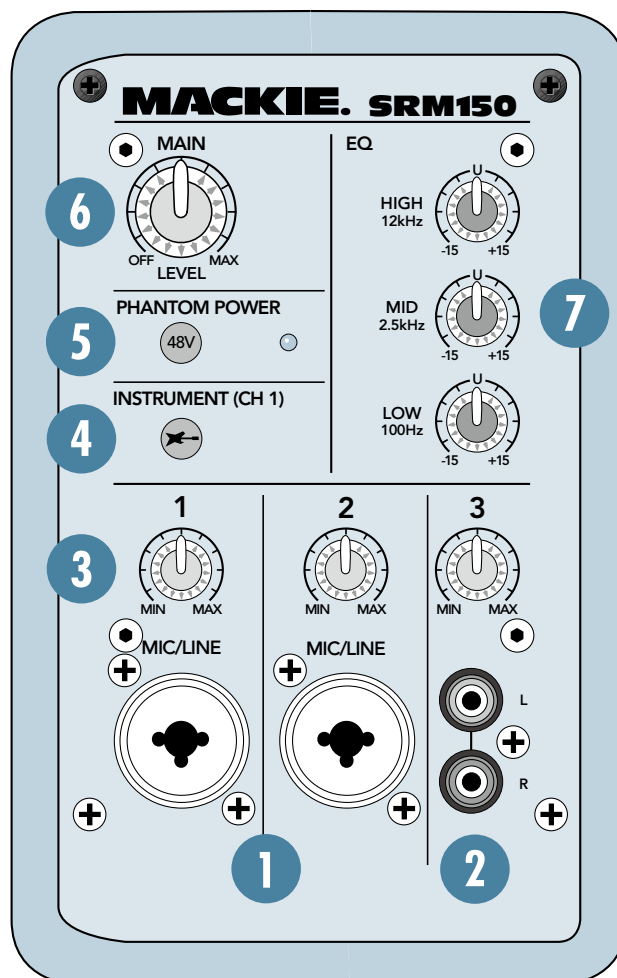
しかしながら ... この楽器入力はアンバランスなので、楽器と SRM150 の間を (6m 以上もの) 長いケーブルで接続するときは、ケーブルがノイズを拾わないようバランス出力付きのダイレクトボックスを使うのが最善策です。

5. 48V PHANTOM POWER スイッチと LED

ほとんどの業務用コンデンサーマイクにはファンタム電源、つまり XLR マイクコネクターの 2 番ピンと 3 番ピンで供給される低電流の直流電源が必要です。ファンタム電源が必要なマイクを使用する場合は、この 48V スイッチを押してください。ファンタム電源が供給されているときは、隣の LED が点灯します。

このスイッチはチャンネル 1 とチャンネル 2 の XLR 入力コネクターに 48V を供給するグローバルスイッチです。

SHURE SM57 や SM58 などのダイナミックマイクには、ファンタム電源は不要です。しかしファンタム電源を供給しているとき



にうっかりダイナミックマイクを接続しても、問題はありません。古いリボンマイクの場合はご注意ください。ファンタム電源によって故障するかどうかはマイクロフォンの取扱説明書で確認してください。

6. MAIN レベルノブ

SRM150 のミキサーから内蔵パワーアンプに入る信号のレベルを調整するものです。

MAIN レベルノブは「クイックスタート」の手順通りに設定してください。

ギターのエッジ、ボーカルの高いハーモニクスが含まれます。一般に **HIGH EQ** はスピーカーのサウンドをより輝かせます。

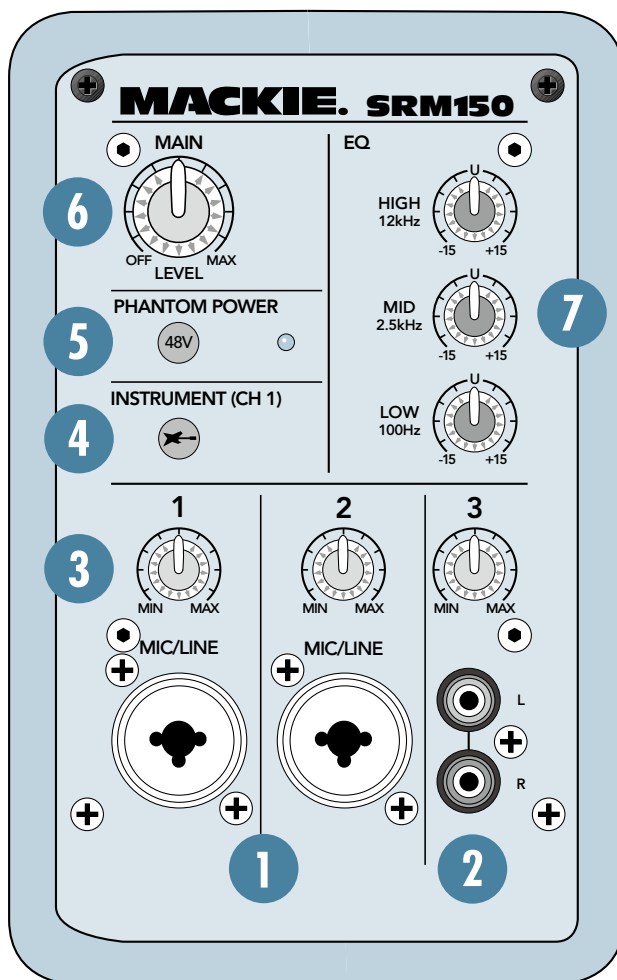
MID EQ は 2.5kHz 付近の中域を 15dB までブーストまたはカットします。ほとんどのボーカルが中域にあることから、ミックスの中でボーカルを浮き立たせたりとけ込ませるために使うことができます。

LOW EQ は 100Hz 以下のかかなり低い周波数を 15dB までブーストまたはカットします。この周波数はバスドラムやベースギター、あるいは一部の大神所シンガーの声にパンチをくわえます。

7. HIGH、MID、LOW EQ ノブ

SRM150 のサウンドを全体的に調整するとき、この EQ ノブを使います。

HIGH EQ は 12kHz 以上のかかなり高い周波数を 15dB までブーストまたはカットします。この周波数にはシンバルのシズル、



リアパネルについて

8. POWER スイッチ

SRM150 の電源を入れるスイッチです。電源を入れる前に MAIN レベルノブ [6] を完全に下げてください。

このスイッチの下部を押すと SRM150 はスタンバイモードになります。機能しませんが内部には電源が入っています。完全に電源を切るには、AC 電源そのものを OFF にするか、SRM150 または電源から電源コードを外してください。

POWER スイッチを ON にして正常な AC 電源に電源コードを接続すると、スピーカーのフロントパネルにクールな青色 LED が点灯して、ロックンロールする準備ができたことを知らせます。

9. FUSE スイッチ

リセット可能なサーキットブレーカーで、SRM150 に流れる電流量を監視しています。通常の動作状況では、このスイッチは機能しません。アンプ出力のピークと電源電圧のサージが同時に発生するなど、異常が発生するとこのブレーカーが動作します。

このブレーカーをリセットするには、

- POWER スイッチ [8] を OFF にして FUSE スイッチを上位の位置にします。
- POWER スイッチを ON に戻し、SRM150 を通常動作状態に戻します。サーキットブレーカーが再び動作するときは SRM150 の内部に問題が発生しています。この製品をお求めの販売代理店まで修理を依頼してください。

10. 電源インレット

標準的な 3 ピン IEC コネクターです。着脱式の電源コード (SRM150 に付属しています) を接続し、もう一方の端を AC コンセントなどに接続してください。SRM150 はユニバーサル電源を内蔵しているので、100V から 240V までの AC 電源を受けることができます。電圧選択スイッチはありません。この製品は実質的に世界中どこでも動作します。

NOTE AC 電源コードを紛失された場合は、この製品をお求めの販売代理店にお問い合わせください。

11. THRU コネクター

XLR オスコネクターで、EQ ノブ [7] と MAIN レベルノブ [6] のすぐ手前からメイン信号を取り出します。THRU コネクターの信号には、チャンネル 1 から 3 [1、2] の信号と MAIN IN コネクター [13] の信号が含まれます。

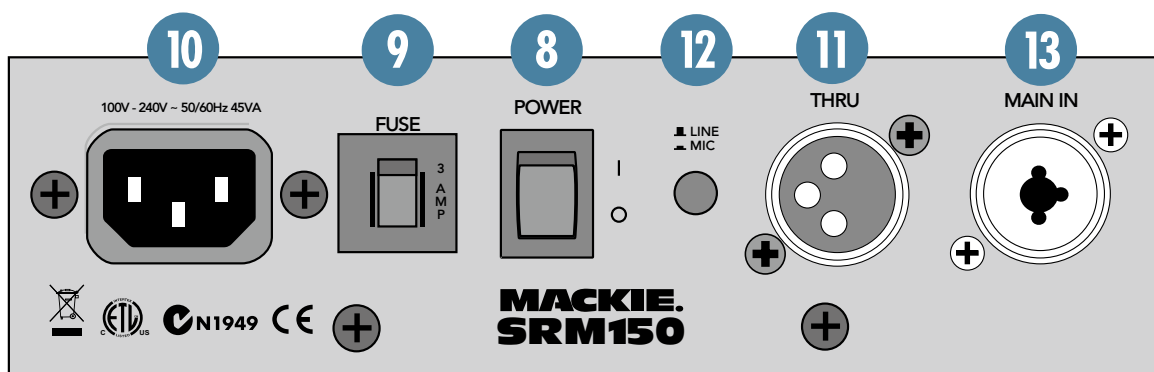
SRM150 からの信号を別の SRM150 や他のアクティブスピーカー (SRM350v2、SRM450v2 など) やミキサーに接続するとき、このコネクターを使ってください。

12. MIC/LINE スイッチ

このスイッチは THRU コネクターの出力レベルに作用します。THRU コネクターから他の SRM150 やミキサーのラインレベル入力に接続するときは、このスイッチを突き出した状態 (LINE) にします。ミキサーやステージスネークのマイク入力に接続するときは、押し込んで (MIC) ください。

13. MAIN IN コネクター

XLR や 1/4 インチ TRS コネクターでバランスのラインレベル信号を受ける combo コネクターです。この信号はメイン・ミックス・バス上 THRU コネクター [11]、EQ [7]、MAIN レベルノブ [6] のすぐ手前でチャンネル 1 から 3 の信号とミックスされます。

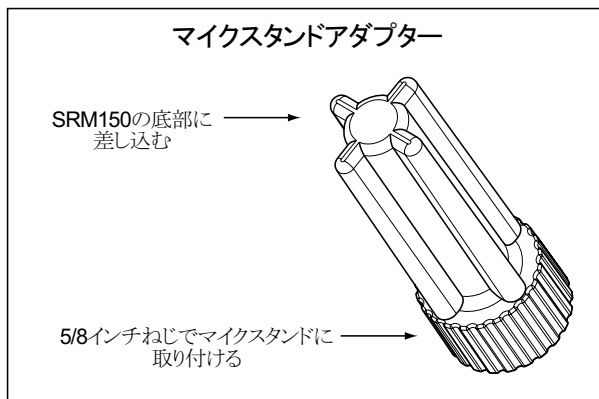


設置

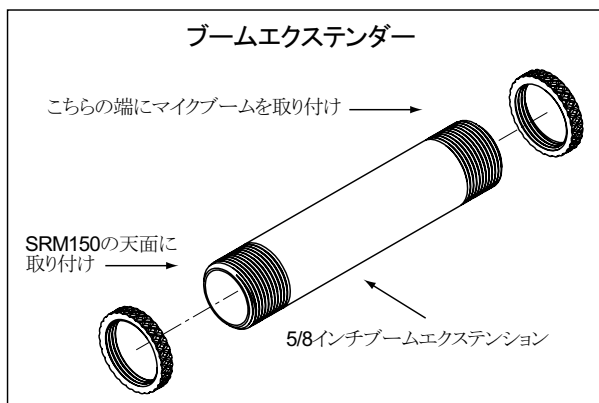
コンパクトアクティブ PA システム SRM150 は、床やテーブルに置いたり、標準的なマイクスタンドに取り付けられるよう設計されています。

SRM150 を床に置くとフロアモニターとして使えるよう角度が付きます。キャビネットのユニークな形状によって、ステージフロントからパフォーマーを上向きにねらう完璧な角度になります。

またマイクスタンドアダプター（付属しています）で SRM150 を標準的なマイクスタンドに取り付けることができます。



さらにキャビネットの天面には、ブームエクステンダー（付属しています）を取り付ける雌ねじがあります。このねじは SRM150 の天面にマイク用のブームを固定するときに使います。



どんな電気製品でも同じですが、霧などから守ってください。SRM150 を屋外で使用する場合、雨などが予想されるときはカバーなどで覆ってください。

ここでは設置に関するその他のヒントを紹介します。

- スピーカーを部屋の角に置かないようにします。低域出力が増強され、サウンドがどんよりして輪郭がぼやける原因になります。
- スピーカーを壁際に置かないようにします。これも低域出力が増強されるからですが、部屋の角に置いたときほどではありません。しかし低域を補強したいときは良い方法でしょう。
- アクティブスピーカーを中空のステージフロアに置かないようにします。中空のステージは特定の周波数で共振することがあるので、室内の周波数特性にピークやディップを作る原因になります。アクティブスピーカーは丈夫なテーブルの上やマイクスタンドに取り付けてください。

温度について



SRM150 の内蔵アンプは、大型ヒートシンクによる対流空冷式です。効率的な冷却のため、SRM150 の背後には少なくとも 15cm 程度の空間を確保してください。

環境温度が高いとアンプがオーバーヒートする原因になります。この場合はヒートシンクに向けてファンを回し、金属製フィン部分の風量を増やしてください。

ほとんどないことですがアンプがオーバーヒートすると、内蔵の温度スイッチが動作して SRM150 のアンプをスタンバイに切り替えます。アンプが安全な動作温度まで冷却されると、この温度スイッチがリセットされて SRM150 は通常動作に戻ります。

AC 電源について

SRM150 は、アンプに十分な電流を供給できる電源コンセントなどに接続してください。

最大音圧レベルのとき、音楽のピークがリミッターにふれると SRM150 には平均して **2A** の電流が流れます。通常の状態では流れる電流は **1A** 程度です。

アンプが大きい電源を消費するため、十分な容量のある電源に接続してください。電源がより大きな電力を供給してくれればスピーカーの音量が大きくなり、よりクリーンでベースにパンチのあるピーク出力パワーを提供するでしょう。「低域特性が貧弱」という問題が疑われるときは、アンプへの **AC** 電源が弱いことが原因になっている場合もしばしばあります。

ショーで照明と一緒に使っているときは、照明器具の電源を音響機器の電源とは別の回路から取った方が良いでしょう。これで音声によってくる照明からのノイズを最小限にすることができます。(特に **SCR**、照明ディマースイッチャーを使っているときはご注意ください。)

可能な限り、音響機器を同じ電気回路に接続してください。これでスピーカーからハムを再生する原因になるグラウンドループの可能性を低くすることができます。

(120V の場合) **15A** の電源に接続できる SRM150 は最大 5 台です。この状態なら SRM150 を最大レベルで安全に動作させることができます。

システムの電源を切るときは SRM150 の電源を最初に切ります。これで電源を切るときにショックノイズとソース機器からのノイズを再生せずすみずみます。



ショーでは状態がわからない **AC** 電源分配システムに接続することもしばしばあります。セーフティグランドのピンがない **2** ピンのアウトレットに出くわすことがあります。工具箱に **3** ピン **AC** アウトレットテスターを入れておくと良いでしょう。これでアウトレットをチェックし、正しく配線されているかを確認することができます。テスターを使えばホットとニュートラルが逆に配線されていたり、セーフティグランドが接続されていないことなどもわかります。



正しく接続されていないアウトレットを使わないでください。機器はもちろん皆さんを保護するためです。



SRM150 と他の機器のグランドピンを折らないでください。これはとても危険な行為です。

お手入れとメンテナンス

Mackie 製アクティブスピーカーは、下記のガイドライン通りに手入れすれば、長年にわたって信頼できるサービスを提供します。



スピーカーを霧の中に放置しないでください。屋外で使用中に雨が予想されるまたはワシントン州にお住まいの場合は、カバーを掛けてください。

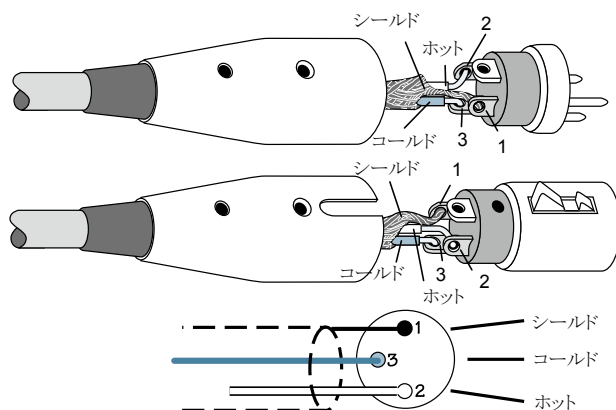
- ・(氷点下以下など) 極端に温度が低い場所に放置しないでください。このスピーカーを寒い場所で使用する場合は、低いレベルの信号を **15** 分ほど送ってボイスコイルをゆっくり暖めてから、高出力で動作させてください。
- ・キャビネットの清掃には、やや湿った布と刺激の少ない石けん溶液を使ってください。清掃するときは本体の電源を必ず切っておいてください。キャビネットの開口部から、特にユニットが入っている位置に水分が入らないよう注意してください。

コネクター

XLR コネクター

入力 1 と 2 は combo 入力で XLR オスコネクターを受けることができます。配線は AES (Audio Engineering Society) が指定した規格に合わせて下記の通りになっています。

バランス XLR コネクター



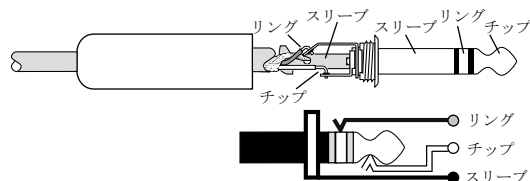
XLR バランスの配線

- 1 番ピン = シールド
- 2 番ピン = ホット (+)
- 3 番ピン = コールド (-)

1/4 インチ TRS フォーンプラグとジャック

combo 入力は 1/4 インチ TRS コネクターを受けることもできます。「TRS」はチップ - リング - スリーブの略で、ステレオ 1/4 インチまたはバランスフォーンのジャックやプラグに 3 つの接点があるものです。TRS ジャックとプラグはバランス信号とステレオヘッドフォンに使われます。

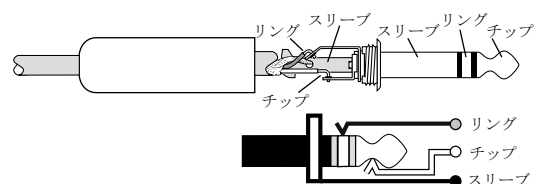
バランスモノラル



1/4 インチ TRS バランスモノラルの配線

- スリーブ = シールド
- チップ = ホット (+)
- リング = コールド (-)

ステレオヘッドフォン

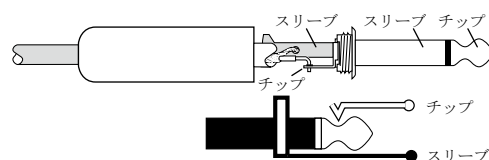


1/4 インチ TRS ステレオアンバランスの配線

- スリーブ = シールド
- チップ = L
- リング = R

1/4 インチ TS フォーンプラグとジャック

「TS」はチップ - スリーブの略で、モノラルの 1/4 インチフォーンジャックとプラグに 2 つの接点があるものです。アンバランスのラインレベル信号と、チャンネル 1 のハイインピーダンス楽器入力に使用します。

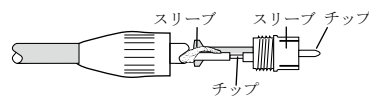


1/4 インチ TS アンバランスの配線

- スリーブ = シールド
- チップ = ホット (+)

RCA プラグとジャック

RCA タイプのプラグ (PHONO プラグとしても知られています) とジャックはよくホームオーディオや映像機器、民生のデジタルオーディオ製品の S/PDIF 接続に使われます。アンバランスで電気的には 1/4 インチ TS フォーンプラグと同等です。



RCA アンバランスの配線

- スリーブ = シールド
- チップ = ホット (+)

サービスについて

Mackie 製品に問題が発生したら、下記のトラブルシュートのヒントを参照して、問題を確認するために全力を尽くしてください。Mackie のウェブサイトにあるサポートセクション (www.mackie.com/support) でも FAQ などの文書で役立つ情報を提供しています。お手元の Mackie 製品を送り出すことなく問題の解答が見つかるかもしれません。

トラブルシューティング

電源が入らない

- Mackie お気に入りの質問。電源コードを接続していますか。電源アウトレットは正常ですか (テスターやランプなどで確認してください)。
- その次にお気に入りの質問。POWER スイッチは ON になっていますか。なっていないならば ON にしてください。
- フロントパネルの青い LED は点灯していますか。消えている場合は AC アウトレットが正常かどうかを確認します。電源が正常だったら次の項をごらんください。
- リセット可能なサーキットブレーカーが落ちています。サーキットブレーカーについては「9. FUSE スイッチ」をごらんください。

音が出ない

- 入力ゲインノブ [3] または MAIN レベルノブ [6] が下がりがきいていませんか。4 ページの「クイックスタート」にしたがって、システムのボリュームコントロールが正しく調整されていることを確認してください。
- シグナルソースは動作して (そして最低賃金を稼いで) いますか。接続ケーブルがきちんと作られていること、両端ともきちんと接続されていることを確認してください。SRM150 に接続したデバイスの出力ボリューム (ゲイン) コントロールが、スピーカーの入力を十分ドライブできるだけ上がっていることを確認してください。

音が良くない

- 音が大きくて歪んでいますか。「クイックスタート」の手順にしたがって、レベルが正しくセットされているか確認してください。
- 入力コネクタはジャックに完全に差し込まれていますか。すべての接続部を確認してください。電氣的な接続部をすべて、定期的に潤滑剤を含まない電氣的接点クリーナーで清掃すると良いでしょう。

ノイズが出る

- アクティブスピーカーへの接続がすべて良好であることを確認してください。
- 信号ケーブルが AC コードや電源トランスなど電磁干渉を引き起こすものの近くを通っていないか、確認してください。
- 照明ディマーや SCR ベースの機器を、SRM150 と同じ電源回路に接続していませんか。AC 電源フィルターを使うか、SRM150 を別の電源に接続してください。

ハムノイズ

- MAIN レベルノブを下げてください。これでノイズが消えたらそのハムはシグナルソースから来ています。消えなければ入力ジャックに接続しているケーブルを、1 本ずつ抜いてください。ノイズが消えたら SRM150 の問題ではなくグラウンドループである可能性があります。
- ノイズを最大限排除するため、システム全体をバランス接続にしてください。
- 可能であればすべての音響機器の電源コードを、単一のコモングラウンドを共用するアウトレットに接続してください。アウトレットからコモングラウンドまでの距離はできるだけ短くしてください。



SRM150 や他の機器の電源コードに付いているグラウンドピンを折らないでください。この行為はとても危険です。

ご不明な点は ...

- www.mackie.com/jp
にアクセスしてサポートの項目をご覧ください。
- support_mackie@otk.co.jp
までメールをお寄せください。
- テクニカルサポートセンターにお電話ください。
日本語 04-2944-3811 (月～金曜、9am ～ 6pm)
英語 1-800-898-3211 (月～金曜、営業時間 PST)

SRM150 仕様

システムの仕様

周波数特性 (-3dB)	100Hz ～ 17.5kHz
周波数範囲 (-10dB)	60Hz ～ 22kHz
最大音圧レベル 長時間 @1m	110dB SPL
最大音圧レベル ピーク @1m	120dB SPL

ミキサー部

周波数特性 (-3dB)	
マイク入力→ライン出力 (ゲイン @0dB)	
5Hz ～ 40kHz (+0, -1dB)	
入力インピーダンス	
マイク	3k Ω バランス
Hi-Z	20k Ω バランス
楽器	1M Ω
ライン	10k Ω バランス
ステレオ	10k Ω バランス
最大電圧ゲイン	
マイク入力 1	51dB
マイク入力 2	51dB
ステレオ入力	9dB
最大入力レベル	
マイク	-28dBu (ゲイン @+50dB)
	+15dBu (ゲイン @+6dB)
ライン	-8dBu (ゲイン @+30dB)
	+35dBu (ゲイン @-15dB)
ステレオ	+20dBu (ゲイン @0dB)
3 バンドイコライザー	
High	± 15dB @ 12kHz
Mid	± 15dB @ 2.5kHz
Low	± 15dB @ 100Hz
ライン出力 PAD	-30dB
CMRR	55dB @ 1kHz, ユニティゲイン
ノイズ (20Hz～20kHz バンドワイズ, 150 Ω ソースインピーダンス)	
EIN	-129dBu
残留出力ノイズ	
(ライン出力、チャンネルおよびマスターレベル OFF)	
	-85dBu

パワーアンプ部

定格出力	100Wrms 連続 (20Hz ～ 20kHz)
最大出力	150W ピーク
定格全高調波歪	0.05%
冷却	対流式
設計	D 級

トランスデューサー

直径	5.25 インチ / 134mm
ボイスコイル径	1.0 インチ / 25.4mm
能率 (1W@1m)	90dB
公称インピーダンス	8 Ω
許容入力	150W
周波数特性	90Hz ～ 20kHz
マグネットタイプ	ネオジウム

安全に関する機能

過負荷プロテクト	リミッター
温度プロテクト	アンプシャットダウン (自動リセット)

構造上の特徴

素材	ポリプロピレン
仕上げ	黒色テクスチャー仕上げ
ハンドル	天面取付
グリル	ウェザーブルーフコート済み パンチングメタル

物理的仕様

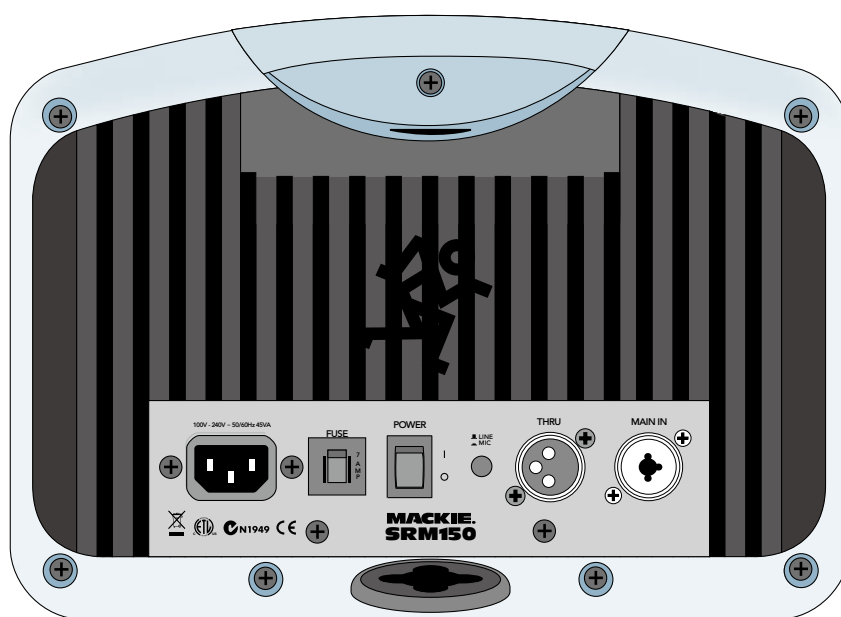
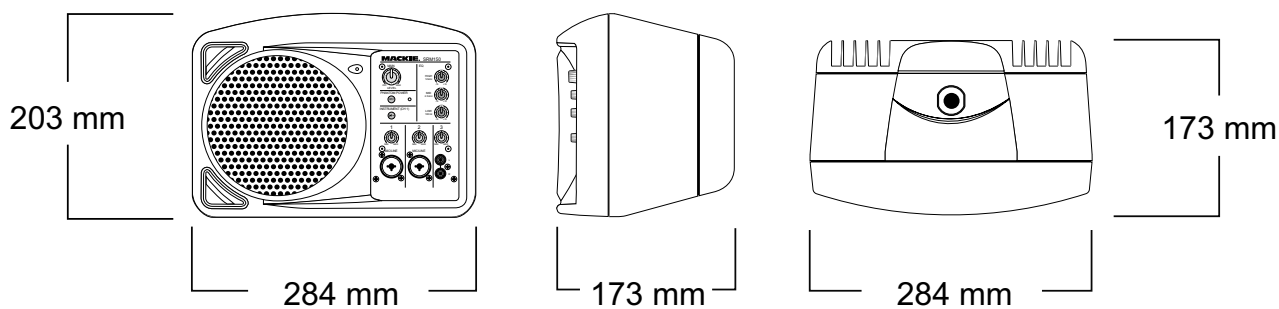
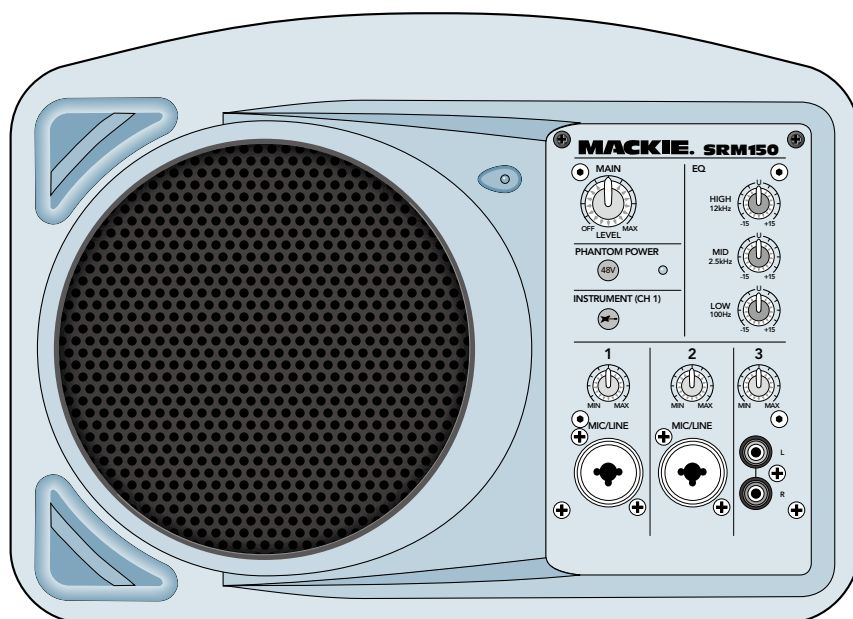
高さ	203mm
幅	284mm
奥行き	173mm
重量	3.4kg
取付方法	マイクスタンド取付…本体底面に 内蔵のソケットに付属のアダプター を使用して取付

AC 必要電源

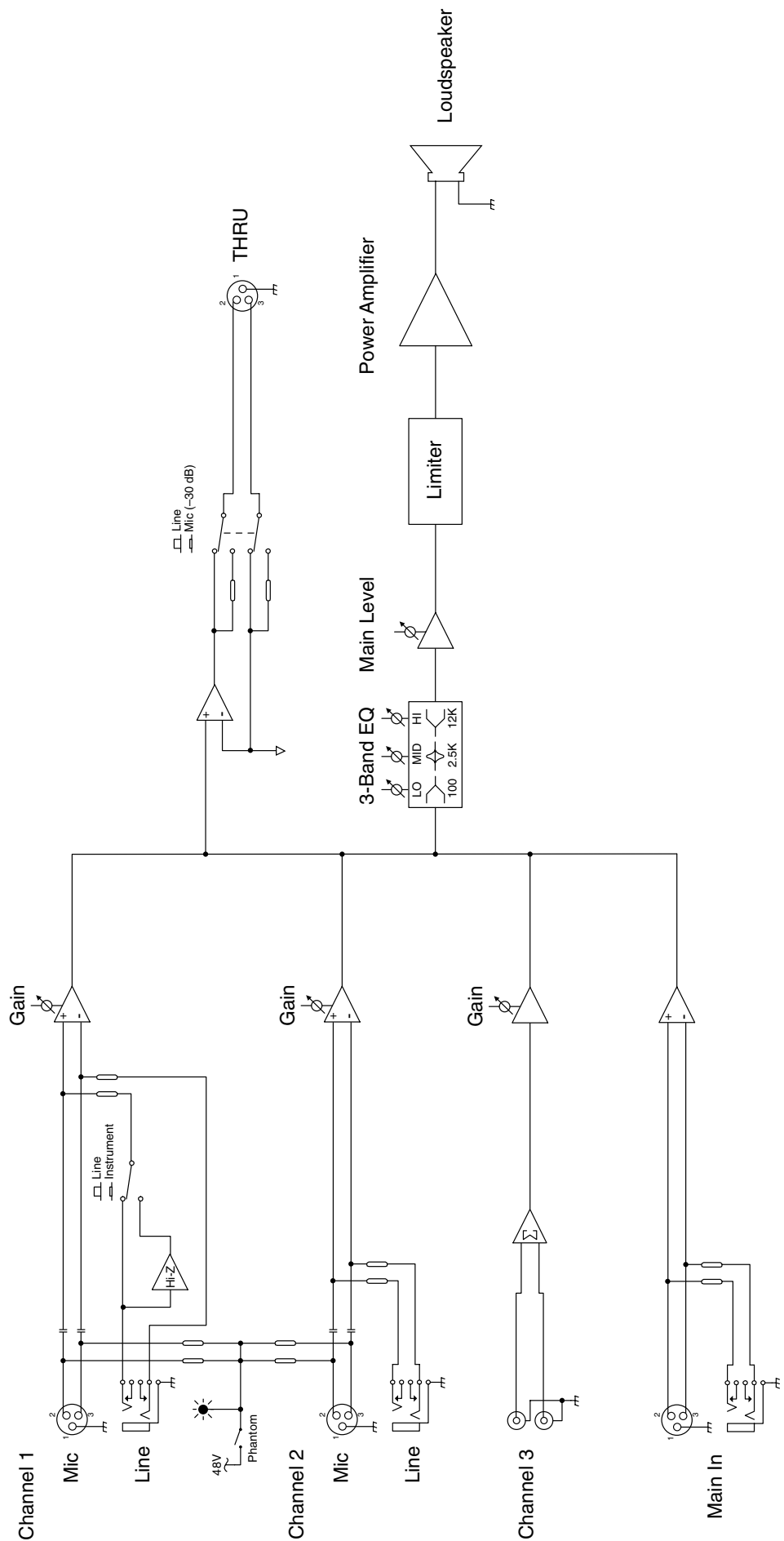
100 ～ 240VAC、50/60Hz、35VA	
電源コネクタ	IEC3 ピン 250VAC

LOUD Technologies Inc. は、新しく改良された材料や部品、製造過程を取り入れることにより、常に製品をより良いものとする努力を続けています。そのためこれらの仕様は予告なしに変更されることがあります。

Mackie、ランニングマンのフィギュアは LOUD Technologies Inc. の商標です。記されたその他すべてのブランド名称は、それぞれの権利保持者の商標または登録商標です。



SRM150 ブロックダイアグラム



MACKIE®